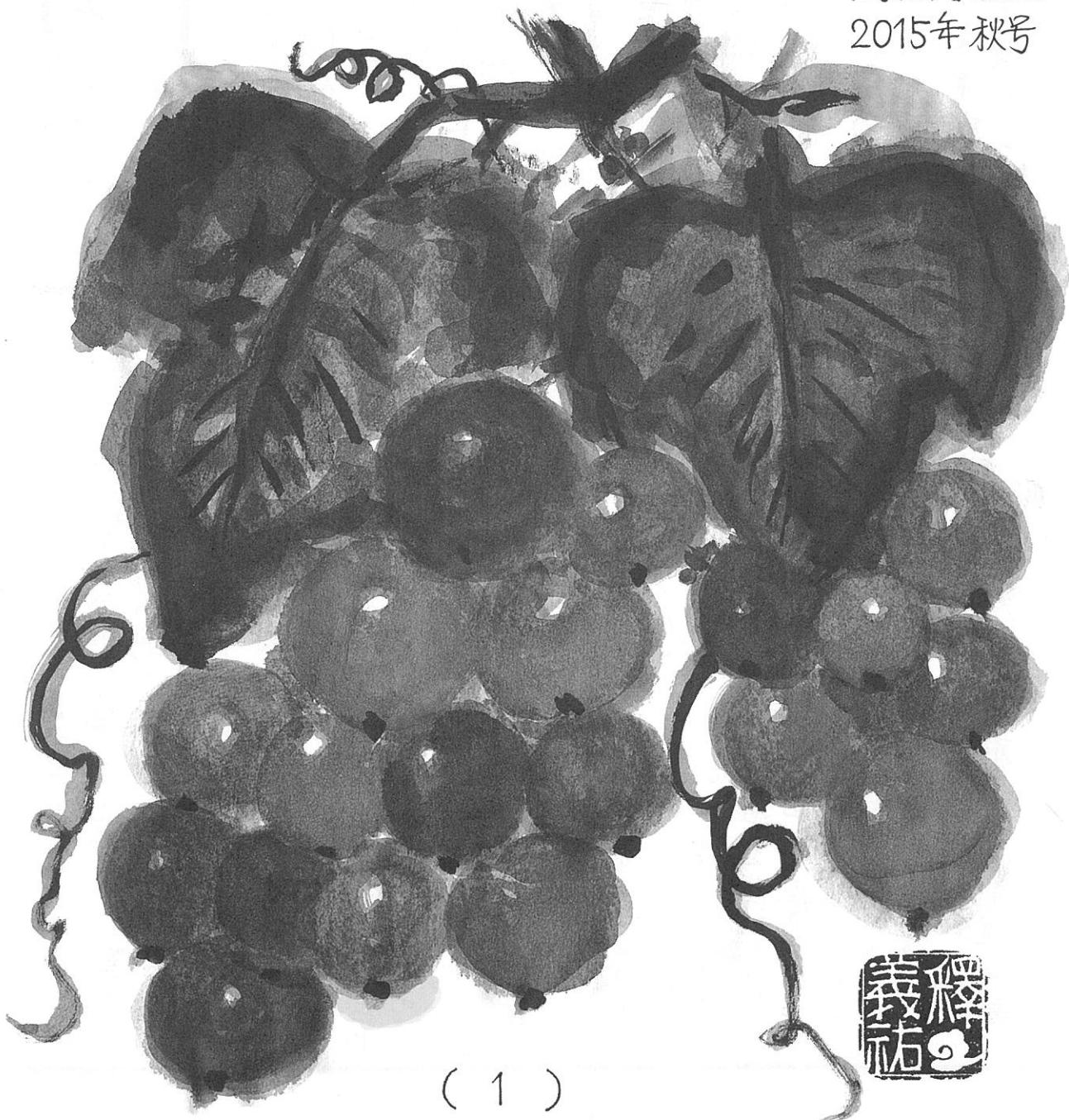


# おかげさん

72号

真宗大谷派  
高徳寺通信

2015年秋号



# 戦争は人類の大犯罪

～あるジャーナリストのことば～

武野武治さんは1915年に秋田県に生まれた。なんと今年の1月2日で100歳になられた。不況に苦しんだ小作農の出身で貧農と金持ちがいる矛盾を感じ、「社会の不平等をなくす役に立ちたい」とジャーナリストを志した。新聞記者になつたのは「二・二六事件」が起つた1936年の4月で、従軍記者として中国やミヤワ島等の戦地を取材されたそうだ。その体験から：『戦場は相手を殺さなければ自分が殺される場所。まともな人間でいられるのは3日まで。4日目から人間らしい感情が消える。国内も同じ。「命令に絶対服従」という軍の論理が全てを支配し、その論理が社会にも家庭にも染み、親子や夫婦にも歪みが生まれる。戦争は人類の大犯罪だ。』そして79年間のジャーナリストの経験から「戦争はハッと気が付いた時には手遅れ、私も戦争の事実を書けなかった。だから

戦争を絶対に始めさせてはならない」と、力強く語られた姿が印象的であった。武野さんは「負け戦を勝ち戦のように書いてきた責任をも」と言って1945年8月14日に朝日新聞を退社され、1948年に秋田県横手市で週間新聞『たいまつ』を創刊、1978年の休刊まで健筆を振るつれた。100歳と「うとちょうど私の2倍の年齢。そのお年になつてもなお、「命ある限り声を上げ、平和を築くために最後の日まで懸命に生き続けたい」とおしゃられている。その生き方に感動した……。

このたびは、大谷派の「安全保障関連法案」に対する声明について

このたびの安全保障関連法案の採決は、未来を踏みにじり、人のいのちを奪い取つていくことに直結する行為です。このことは同時に、戦時下に生きた人々の声、無数の死者を背景に制定された日本国憲法の平和の誓いを空文化させるものです。過去の歴史に学び、未来を開くことに逆行する安全保障関連法案の即時撤回を、「悲しみ」をもつて強く求めます。

2015年7月15日

真宗大谷派宗務総長

里雄 康意

## 「不戦の誓い」（真宗大谷派宗会 1995年）

「私たちは過去において、大日本帝国の名の下に、世界の人々、とりわけアジア諸国の人たちに、言語に絶する慘禍をもたらし、佛法の名を借りて将来ある青年たちを死地に走らしめ、言ひしれぬ苦難を強いたことを、深く懺悔するものであります。この懺悔の田心念を旨として、私たちは人間のいかちを輕んじ、他を抹殺して愧じることないすべての戦闘行為を否定し、さらに賜った信心の智慧をもつて、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまないことを決意して、ここに「不戦の誓い」を表明するものであります。

さうに私たちは、かつて安穏なる世を願い、四海同朋への慈しみを說いたために、非国民とされ、宗門からさえ見捨てられた人々に対し、心からなる許しを乞うとともに、今日世界各地において不戦平和への願いに促されて、その実現に身を捧げておられるあらゆる心ある人々に、深甚の敬意を表するものであります。私たちは、民族・言語・文化・宗教の相違を越えて、戦争を許さない、豊かで平和な国際社会の建設にむけて、すべての人々と歩みをともにすることを誓つものであります。」

1995年真宗大谷派宗議会議員一同／参議会議員一同

6月13日

6月15日

## 「非戦の誓い」（真宗大谷派宗会 2015年）

「戦後50年を経た1995年6月、真宗大谷派は人類の願いを「不戦の誓い」として表現しました。私は、この決議の重みを再確認し、あらためて平和の意味を問いたいと思います。決議より20年、戦争の悲惨さと愚かさに対する人々の感覚は風化してきています。その風化は、現在も、基地問題で苦しむ沖縄の人たちの心に向き合おうとせず、戦争に向かう状況を生み出そうとしています。私たち人間の生きざまを憐れんで、「國に地獄・餓鬼・畜生あらば、正覚を取らじ」と誓い、法蔵菩薩は、浄土を建立されました。永い人類の歴史は、人が人を殺し、傷つけ合う悲しみの連続であります。如来の願心は、自我愛護を正当化して「賜たいのち」を奪い合うことを悲しみ、私たちは、「共に生きよ」と呼びかけておられます。この呼びかけに応じ、「殺してはならぬ、殺さしめはならぬ」という仏陀の言葉を如来の悲願と受け取り、あらためてここに「非戦の誓い」を表明いたします。そして、世界の人々と、積極的な対話を通じて、「眞の平和」を希求してまいります。上記決議いたします。」

2015年真宗大谷派宗議会議員一同／参議会議員一同

6月9日

6月10日

◆あらためて宗門の誓いをお伝えいたし、(3)我々のこれから歩みを一緒に考えてください。

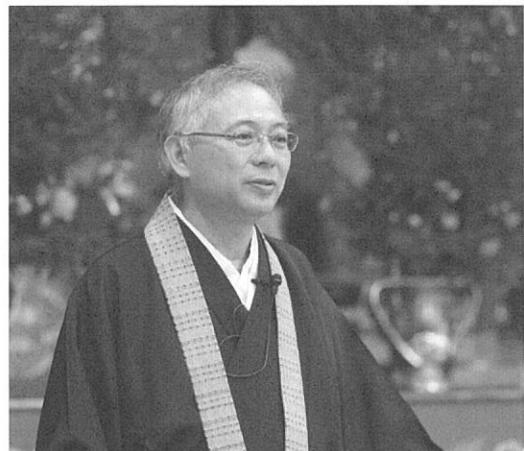
# 報恩講の ご案内

2015年 10月 24日(土)

- ◆ 13時～ご法話『南無阿弥陀佛に生きる』  
～親鸞聖人の御意～
- ◆ 講師：海法龍氏  
(横須賀市・長願寺住職)

## 日 程

11:30	受付・お斎(砥石-ル)
12:50	ご挨拶(本堂)
13:00	法話・海法龍氏(本堂)
14:30	休けい
14:45	大法要(本堂)
15:30	御俗姓御文拜読
15:40	恩徳讚・焼香
	終了



## 《海法龍氏のプロフィール》

1957年 熊本県天草生まれ。  
真宗大谷派 首都圏教化推進本部・  
本部員として、親鸞講座の開催や広  
報誌「サンガ」や「Sein(ザイン)」の発行  
など、親鸞聖人の教えを基とした首  
都圏での教化・広報企画に取り  
組まれている。

乞うご期待！

\* 出欠ハガキを同封の上、改めてご案内  
いたします。

あきひがんえ  
秋彼岸会は **9/20(日)～9/26(土)** です。

◎ **9/23(水)**の**11:30**より本堂にて彼岸会の法要  
(秋分の日・お中日)  
が勤まります。お参りください。  
(どなたでもお参りになれます。)

\* **9/20(日)・21(月)・22(火)・23(水)**は新井白石記念ホールがお休みになります。

お墓のことや法事のこと、その他心配なこと…住職がご相談にのりますのでご連絡ください。

「仏法と~~心~~のつどい」のご案内

期日 2015年 **11月4日(水)～5日(木)**

場所 茨城・大洗 鳴松亭<sup>ゆうしょうてい</sup> TEL: 029-266-1122

講師 太田 浩史氏 (高岡教区・大福寺住職)

テーマ 「唯円大徳と同朋社会」

参加費 20,000円 (宿泊費・食費(2食)含)

\* 高徳寺住職が同行します。お誘い合わせの上、ご参加ください。詳細は住職にお問い合わせください。

14:00～15:00  
参加費 500円

15:05～17:30  
参加費 500円

勤行・輪読・お話し・茶話会など有縁の方々と“場”を味わっております。是非遊びに来てくださいね。

寺ヨガ&寺子屋の時間

のご案内

今年はあと3回  
開催します。

**10/3(土)**  
担当:住職

**11/14(土)**  
担当:本多先生

**12/19(土)**  
担当:本多先生

\*望年会付きのため  
参加ご希望の方  
は申し込みが必要となります。

# Syakson's ライブパーティー

シヤクソンズ

を高徳寺de開きました。



◆不思議で楽しいマジックショー。



◆美しい歌声。大畠あかねさん。



◆弾いたら最後、誰にも止められなー、G・小堀正さん。



◆Bass、新井義雄です。



◆G-Key-Vo、五島満さん。



◆太鼓王子。小笠原翔さん。



◆マンクの女王。神谷ひとみさん。

去る8月26日(水)の夕方から、住職が参加してお坊さんパーティ『ミヤクソニーズ』のライブパーティーを新井白石記念ホールB1に於て開催いたしました。今年も沢山の方に遊びに来ていただきまして、ヨーロピアンショーやミヤクソニーズの音楽を楽しんでいたたくことび出来ました。当日の参加費はそのまま「真宗大谷派・東京教区災害ボランティア支援金」へ送らせていただきました。来年も8月に予定しておりますので、是非お寺遊びに来てください♪

(寺ヨガの先生です)

## おみがき 奉仕御礼

2015年7月5日(日)

有り難う  
ございました。

伊藤 隆介さん  
海東 雅子さん  
菅原 千恵子さん  
塙田 太郎さん  
水越 拓路さん

奥野 登子さん  
清水 和美さん  
塙田 和子さん  
崇島 晓美さん  
水越 和子さん (あいとうけい順)  
仏具はいつも  
ピカピカです。

## カバ御礼

神野くらさん  
大槻 宏子さん

『有り難い  
おかげさん  
です。』

## Omigaki Houshi Onrei

2015. 9. 6 sun

海東雅子さん 河津三和子さん 清水和美さん  
菅原千恵子さん 崇島曉美さん 近松とよ子さん  
塙田和子さん 塙田太郎さん 寛谷恵美子さん  
古谷紀代美さん 水越拓路さん 水越和子さん  
山内貞子さん (あいとうけい順)  
『ご奉仕いただきました感謝いたします。』



“むのたけじさん”の著書の中に『99歳一日一言』

という本があり、読み進めてる途中である。ほんの少しあ紹介しよう。

◆ 一月一日

「このオレがしゃかりしなくちゃ  
で四方が明るくなる。」(この  
オレなんかどうなつてもよいで  
四方が暗くなる。)

◆ 三月三十日

強風でも散らぬ葉がある。  
無風でも散る葉がある。  
世の葉たちよ身の行く末  
を風のせににするな。

◆ 四月四日

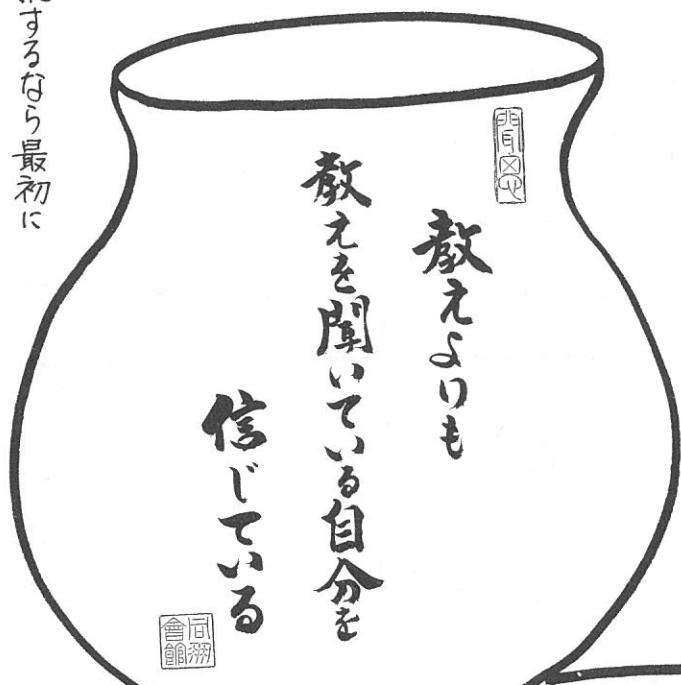
はじめにおわりがある。抵抗するなら最初に  
抵抗せよ。途中で泣くな。

正直言って全部の言葉を紹介したいのだが、無理なので買って読んで味わって

貰いたいと思う。その多くの言葉には重み、深みがあり、仏教用語を使ってないのに“仏法”  
が詰っている。100年生きられたジャーナリストの声を自分自身に向けて、これから歩みを

確認せねばと思った秋の彼岸である。

釋義祐



T164-0002

東京都中野区上高田1-2-9

03-3368-6947

FAX 03-3362-8019

「教えよりも  
教えを聞いている自分を  
信じている」  
(伊藤元氏のことば)

《表紙の絵》「葡萄」  
ぶどう

編集 住職 新井 義雄

発行日  
2015.9.20

発行  
真宗大谷派 高徳寺